

CAP2018に参加・発表してみても

茶木恵子（日本天文愛好者連絡会／豊中天文協会 他）

1. はじめに

CAP への参加は、初めての経験でしたが、所属している日本天文愛好者連絡会（以下、JAAA と省略）が、大会の共催団体に入っていましたので、参加は当然と思っていました。そして、協力の意味も兼ね、厚かましくも、発表は2件も行わせていただきました。一つはJAAA、もう一つは豊中天文協会の活動についてのものです。当初は2件とも、ポスター発表の予定でしたので、2月末まで手も付けずにいたのですが、大会実行委員長であるIAU OAO のシーリョン・チャン氏より、JAAA の発表がポスターから口頭になった旨のメールをいただき、大会まで3週間足らずでしたが、とにかく、突貫工事で大会に間に合わせました。

大会を運営する方々のご尽力のお陰で、参加者が大変多く、初日の受付混雑が予想された為、開幕前日から受付が設けられました。係の皆さんは本当に大変だと思い、金曜の用事を済ませたあと現地に向かい、前日受付の終了時刻すれすれに滑り込みました。

2. プログラムと発表

いただいた冊子のプログラムを見てみましたが、私の発表はポスター2件のままでした。印刷が間に合わないのは当然と思いながら、私が発表する時間に、元々発表を予定されていた方の内容を見て、不安になりました。そのタイトルは、“The Business of Astronomy-Engaging MBA Students”で、私の、素人の天文普及の話題とは、かけ離れていました。冊子のプログラムに載っていないということは、私の発表の時、会場に集まる方々は、プログラムの Mr. Hollow の発表を目当てに来

られる方が殆どではないかと想像すると、これは相当な期待はずれになると思いました。

そこで発表の冒頭で「私は Mr. Hollow ではありません。奥様でもありません。」と自己紹介したところ、思いのほか、会場の皆さんが大笑いしてくださったので、緊張もほぐれ、なごやかな雰囲気での発表ができました。

3. 発表概略

タイトル『日本のアマチュア天文活動や、JAAA による天文普及の取り組みについて』

3.1 アマチュア天文活動について

日本には評価の高い著名なアマチュア天文家が数多く居り、学術的研究の進歩や新たな発見にも多大な貢献をされている。こうしたハイアマチュアに加え、多くの天文ファンも日本には居る。彼らは惑星や彗星、星団、変光星、日食、流星、星景等、様々な対象を撮影したり、研究、観望したりして天文を楽しんでいる。また、望遠鏡や機材を製作したり、一般市民や子ども達を対象に、観望会を開いて天文普及に努める愛好者も少なくない。楽しみ方はそれぞれでも、多くの人々が天文に興味を持っていることは間違いない。

JAAA は、このような日本の天文愛好者や天文ファン、天文に興味を持つ一般の人々をつなぐ、ゆるやかなネットワークの団体であり、天文の楽しさを広める為に努力している。

3.2 天文普及活動例

JAAA の天文普及活動の具体例としては、天文愛好者交流会や、過去に行った LIME キャンペーン、すばるチャレンジ等がある。

（1）全国天文愛好者交流会

JAAA は、世界天文年に際して開催された『天文同好会サミット』を踏襲する形で、毎年、全国の天文愛好者の集まる交流会を開催しており、これは天文なかも間の情報交換や友好を深める良い機会となっている。青少年の研究促進の助力となるよう、小中高校生（18歳以下の高専生を含む）の発表に対しては、海部宣男奨励賞が授与される。

(2) LIME キャンペーン

LIME キャンペーンは、NASA による月面探査機 LADEE の月面上空での探査に合わせ、地球で月面の閃光観測を行おうという、NASA の LIME (Lunar Impact Monitoring Event) プロジェクトを支援し、同時に一般の方々も参加し易いよう、月に注目し、月を楽しもうというキャンペーンだ。

このキャンペーンの際、天文愛好家の御夫妻 (Katsu & Suzu さん) が、なんと、探査機を擬人化した LADEE ちゃんを製作され、人間等身大のパネルも作成して下さい。この LADEE ちゃんは、各地の星祭りや LIME キャンペーンのワークショップ等、更には CAP2018 の懇親会でも、大活躍してくれた。

(3) すばるチャレンジ

すばるチャレンジは、国際光年を盛り上げるイベントとして行った。全国同時、或いは同期間に星を観て、その瞳や機材に集まった宇宙からの光を合計し、ハワイのすばる望遠鏡の集光力に挑戦しようというものだ。このキャンペーンでは、プロダクションのご協力のもと、アニメのキャラクターを利用させていただいた。ちらし配布や SNS を利用し、天文ファンのみならず、一般やアニメファンへのアピールも行った。その結果、最終チャレンジですばる望遠鏡を超える事ができた。

すばるチャレンジのように目標を設定する事で、ゲーム感覚で楽しみながら星見ができ、モチベーションが上げられる。また数値化や図式化する事で、目標が明確になり、参加し

た実感に加え、目標を達成できた時の成就感や、参加者に一体感も感じてもらえる。

(4) まとめ

こうしたキャンペーンには、以下のような共感への願いが込められている。

★みんな、繋がっている！

多くの人々が一つ空の下で同時に観望・観測している。皆が星空を介して、繋がっている。

★宇宙の神秘を感じ、探求する心を持とう！
自分達の目の前に、深淵な宇宙が広がっており、そこに偉大な自然がある。そしてそれらを探求できる境遇に居る自分たちの幸運を共有しよう。

★自分たちは宇宙の一部！

私達は同じ空、同じ天体、同じ宇宙を見つめている。星空に国境はなく、皆が共有している。星空は等しく私達の頭上にあり、私達は自分たちを取り巻く宇宙を共有し、宇宙の一部として生きている。

4. おわりに

つたない発表でしたが、皆さん、熱心に聞いてくださり、終了後には、『感動した』と声がけしてくださる方が何人もおられて、お世辞でもとても嬉しかったです。懇親会の時にも、『あなた方の天文への熱意に感心した』と言ってくださったり、帰国後、メールで『私の国に是非お越し下さい』とお誘いをいただいたり、正直、特別な話はしていませんが、意外な程の反響で、私自身、大いに驚き、発表をさせていただいて本当に良かったと思いました。国や言葉は異なっても、宇宙や天文普及への想いは同じなのだと感じました。また、多くの発表を拝聴し、沢山の方々とお話できて、とても有意義だったと思います。

この大会を大成功に導いた、大会関係者の皆様方に、心より御礼申し上げます。

茶木 恵子